

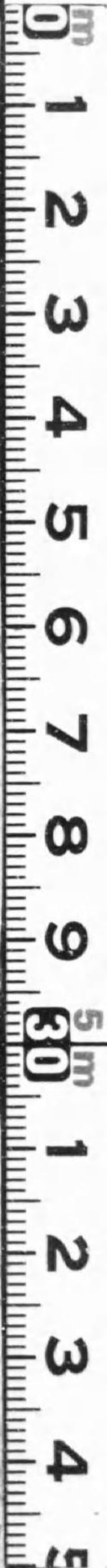
特 220

94

遺 中村春二先生稿

母親の爲めに

始



はしがき

今年成蹊小學校の創立二十周年を迎へまして私の思ひました事は、これを機として成蹊教育の歴史を記して置かうといふことでありました、さう考へて居る處に主事の上原先生から「先生、中村先生の年譜を作つたらとの御すゝめがあり、この夏休中は殆んど毎日これに取りかゝつて居りました。



さて年譜の作製に當りまして、色々の材料、中村春二選集を始めとし、成蹊創立の雑誌「こかけ」「新教育」「母」「母と子」「くちなし」は勿論、生徒の日記、職員

の著作、先生の歌集や手記等をずつと通覽致しましたが、先づ私に感じましたことは、先生は實に「時代の先覺者」であつたといふことであります。いつも社會の動きの先頭に立つて、其の進運の先途を見つめ、御自身の教育方針やその方法を定められてあつたことが、これ等の文献を通してはつきりと分つたのであります。池袋當時



私共はたゞ、よく先生は變つたことをなさるとは思つて居りましたが、今、年次を追ふて通覽致しますと、其變へられた理由がよく分るのであります。

で、先生が學校を創設されました、何を目的としてやられたかと言ひますと、無論教育の徹底、眞の教育の樹立といふことでありましたが、なぜ中産以下の子弟を目標とし、無月謝とか教科書貸與とか、さういつた社會政策的のことをされたかと言ひますと、當時の論說或は實務學校創立趣旨書等を見ますと、矢張り、社會の暗黒面満たされざる社會層を何とかしてやりたいといふ憂國の情が、閃々として見えるのであります、つまり一臂の力よく此の救濟的の大事業が成し得ざるまでも、先づ槐より始めたら、必ずやこれに次いで來る者があるであらうと言ふ、悲壯な決意が見え、どこまでも國家の安危、社會の盛衰といふことがその對象であつたやうであります。そしてこれが先生の三十五六歳頃でありました。

次に大正五六年頃になりますと、先生の對象とされましたのが、一般教育者であり

まして、教育の盛衰消長は、先づ教育を行ふ所の教育者の修養向上に依ると見られ、勿論師道の振作といふことは、實務學校創立當初よりの宣言でもありましたが、此頃の先生の活動は實に東奔西走、西は鹿兒島より東は秋田の二府十六縣にも亘つて、新教育の鼓吹と先生獨創の心力修養の實踐指導でありました。そしてこれが四十一二歳頃まであります。

やがて大正八九年、世界改造の思潮が横溢し、世を擧げて思想が對立的となり破壊的となりつゝあつた頃、先生の年で申しますと、四十三四歳前後になります、その頃の教育主張の對象が家庭の母といふことに變つて參つたやうであります、即ち初めは國家とか社會とかを考へて居られたのが、教育者となり遂に家庭の母となつたのであります、當初の一念であつた教育報國の希願は決して放棄されたのでなく、掘り下げ／＼して遂に母の教育といふ根本の源に到達されたのであります。そして女學校設立がこれより少し前の大正六年春でありまして、雑誌新教育を「母」と改題され

ましたのが大正九年であり、對立的破壊的に進みつゝある社會は、何れはやがて生れ
來るべき新社會への道程と見、その新社會への準備としては、一に母の教養であると
見極められたのであります。

今茲に先生の遺稿の中より母の會の講話速記や「母」誌上に發表されました講話等
を集めて「母親の爲めに」と題し刊行することに致しましたが、刊行を決心しました
のは全く成蹊女學校長奥田先生の御聲援によるところでありまして、茲に御禮を申上
ぐる次第であります。

昭和九年九月

澁谷光長

母親のために

目次

一	教育上に於ける母の責任……………	一
二	恐ろしい母……………	七
三	どう育てる？……………	一四
四	子供の云ふまゝに……………	三六
五	迷信打破について……………	四〇
六	國家の上より見たる母の位置……………	四八
七	子供の氣分……………	五二
八	夏の夜がたり……………	六四

八 母の教育法

母の教育の目的

母の教育の手段

母の教育の環境

母の教育の時期

母の教育の程度

母の教育の責任

母の教育の成功

日誌

母の教育の心得

母親の爲めに

一 教育上に於ける母の責任

此子供はどうも生意氣だ、母親の言ふこと等は少しも聞きません、といふお母さんの愚痴をよく聞きますが、母親の言を聞かぬといふは外界の色々な事情の爲に来ることもあるけれど、親子の關係は一種特別のものであるから、母が始終親だ可愛い子だといふ考を以て親子の關係を充分つけて行く事、言ひ換へれば母親の意志が子供に徹底するやうにすれば。外界の誘惑は左程心配することは無からうと思ひます。

さうして先づ第一に斯かる點から考へれば母の心得が間違つて居るか、又氣込が弱いかではなからうか。母の眼の着け所が悪いとは言はぬが、眼を着ける氣持が悪くはないか、其の着眼點が餘り近過ぎはしないかと思ふのであります。例へば道を歩くにも先の方を見ずに、唯良い道だからと歩いて行けば、つい行かうとする目的地には行

けないで、とんでもない所に行くやうになる。子供を育てるには子供の將來を第一とし、之を目標として指導して行かねばならぬ。然るに多くの母は將來を考へるに唯近い所だけを見て指導するから、折角の親切が子供の爲にはならぬ事となる。例へば子供にお腹が減つたであらうと同情するのは結構だが、食事の時でないのに間食物を與へるやうなのは、子供に悪い習慣をつける事となるから控えなければならぬ、といふ點を考へるのは將來に着眼した場合だが、つい可愛いと言つて食物を與へる故、食事の時は充分食べる事が出来ぬといふは、子供に對する親切はあつても、それが近い所に限られたので却つて其及ぼす所の影響は好ましくない事になる。

學校當事者として常に嘆息する點は、かく母が子供を愛して居ながら遠い所を見て居ない事が屢々あることである。母親が困つて居る子供は、大抵母の仕向け方が近い所を見て指導した結果であるやうだ。子供の將來を考へて居る家庭の子供は學校の方では取扱ひよい子供である。斯る點を考へて見ると、母の心持は結構だが、眼の着け

所の遠い近いで子供は善くも悪くもなるのであるから最注意をせねばならぬ。一體女の立場として子供に對して辛く當るといふことは爲し難いことだが、子供の將來を考へた場合は辛く當らねばならぬことが多い。母が子の將來を考へ辛く當る事が出来ないため、子供を厄介な者にして了ふ事になりはしないか。かういふ事を考へると、母親の子供を育てる上に就ての信念を今より餘程強くもつ必要があると思ふ。世間の母が子供に辛く當ると、主人からさう辛くしなくともとの批評や叱言を受けるが、一體主人は終日不在であるから、子供を教育せんとする考よりは子供と一緒に家庭の團欒を得て樂まうとする考で大部分は居られるやうである。終日外部の仕事にクサー／＼して歸つた場合、子供に對して訓戒を與へると言ふよりは、ニコ／＼した顔を見て樂まうと言ふ心持の人が多い。斯る場合に子供の態度に就いて叱ると言ふ事は主人は餘り歓迎しない事が多い。かういふ時に母が不斷の決心を弛めたなら、子供から母親は侮られて了ふ事になつて來るのである。故に母は自ら家庭に於ける子供の唯一の教育者

であるからといふ考を以て少しも弛みなく子供の教育に没頭する丈けの信念を持つ必要がある。父親も亦子供の教育は全部妻に任す考で、母の教育を鈍らせるやうなことは成るべく注意する心持が肝要だと思ふ。子供は非常に伶俐であるから少しでも母が隙を見せたら最後、常に侮られる様な結果になる。斯る點から言へば家庭に於て母は少しの隙も子供に見せないやうにする心掛けが大事である。換言すれば悪い子供をよく調べて見ると母に隙がある爲めと言ふに歸するやうである。故に母の責任は非常に重くなるのである。私の子供は言ふことを聞きませぬといふ母の言葉は、私は常に子供に隙を捕へられてゐると言ふ意味、言ひ換へれば私は子供を教育する力がないと告白すると同じで、丁度教員が私の受持生徒は困りますと言ふは、私の力は誠に哀れなものですと言ふと同一である。前申したやうに一番大切な事は母が子に對する信念、即ち子に對して眞劍の指導をする事である。

第二は今日の教育の實際を言へば子供の交る友達である。今の教育に於て教師の感

化、學校の感化と言ふものは極めて力のない口惜しいものである。之に反し子供は非常に友達の感化を受けてゐる。故に一般の學校に於て良い學校と言はれる處は、教師が良い、學校の設備がよいと言ふのでなく、事實生徒が良いといふ有様である。であるから今日の如き教育の力の弱い時代には、非常に恐るべきは友達であらう。故に母は自ら省ると同時に、子供が如何なる友達と交つて居るかを日々考へねばならぬ。家庭によると自分の子供の親しい友達の名前も知らず、勿論其家庭の様子も知らずして、友達が來れば歓迎するやうなのが多い様だ、私はこの恐ろしき力ある教育家——友達——をもつとく研究する事が非常に大切な事と思つてゐる。此頃は大分家庭に於て學校の選擇には注意する様になつたが、友達の選擇に就いては、まだく一向注意をせぬやうであるが、悪い友達は絶対に拒み、善い友達と交らせる様指導する必要がある。

第三に受持の教師を注意する事も必要である。學校がよくても受持の教師が親切で

なければ、子供に對する教育が充分でないから、受持教師の如何は常に母の注意する必要がある。今日の母親は、前申した様に學校の選擇はするが友達を選ばぬと同じ様に受持教師に對して餘り冷淡である。學校教師の統一といふことが出来て居ない今日、學校が良いからと言つて受持教師が必ずしも良いとは限らないから、自分の大切な子女の教育を引受けてもらふ受持教師が如何なる人物であるかは知つて居らねばならぬ。若し腑に落ちない事があれば大切な子供の事であるから受持教師と打合せをしたいものである。一人の子供でも中々教育の出来ないものであるから、まして多數の生徒を預つてゐる教師は如何に手腕があり立派な人でも、思はぬ手落ちがあると言ふ事は當然であると考へて、其忙しい教師を助けて過のないやうにするは生徒の親としての義務である位に考へて、一度申出でも用ひられない等と諦めないで、用ひられるまで何度でも相談に行くと言ふ位な熱心を母親は持つ必要がある。

第四は子供の讀む雜誌書籍類、又は興行物活動寫眞の如きものに對しては母は常に

注意して、善惡の指導を怠らぬやうにする必要がある。子供の讀む讀物は是非母が一通り眼を通して批判し、活動寫眞に行く場合には必ず母が連れて行き、子供の考などを聞いて適當な指導を與へなければならぬ、私の考を卒直に申せば活動寫眞は絶対に禁止する位の決心の方がよいと思ふ。この四つの點に注意したならば子供が言ふことを聞かぬと言つて、子供の將來までも心配になるやうな事はなくなるだらうと私は思ひます。

二 恐ろしい母

下關發の特別急行列車が大阪に着くと、どや／＼と二等室に入りこんだ男女の幾群があつた。窓から入れ込む赤帽の荷物が棚の上や床の上に適當に配置され終ると、列車はそろ／＼と東に向つて動き出した。

私の右隣に座つた男女の二人連は四十位の年増と三十五六の手代風の男。話の様子で

は姉と弟らしい。そして連れてゐる五歳位の男の子はその女の息子らしいが、「お祖父さん」と私の左隣の老人を呼びかけた。「生きて居るうち遇はれませうか」と互に話すのから考へると、東京の親族の病人が危篤のため急ぎ出京する模様である。

汽車が動き出すと、その男の兒が大きなバナナ三本を忽ちのうちに平げてしまつた。そしてパンがたべたいと言ふ。京都にも無かつた、大津で漸く見つけ出して母親は二つ與へた。もつととせびるので「もう一つぎりですよ」と更に一つを與へた。その一つぎりですよと宣告して渡したパンも見る／＼平げてしまつて、其母が弟と打解けて話をしてゐる虚に乗じて「も一つ」と言ふと母親は先きの宣言も忘れたかのやうに無雑作に一つ與へた。かうして五つのパンを片づけられた。

私は京都で五色豆を買つたので、徒然の餘り久しぶりで食べやうかとカバンの中から取り出すと、其の慧眼なる腕白兒は忽ち之を見付けて、私の豆をねらつて欲し相な表情をした。一體なら子供好きの私とて豆を分けてやるのであるが、あまりに子供が

我儘であるのと、既に多くを食べてゐるので、罪を作つてはならぬと折角出しかけた豆を又カバンに引つ込めてしまつた。

少したつとその兒はサイダーが飲みたいと言ふ。母は直に立つて食堂車へ行き、サイダー二本を持つて來た。そして袋からコップを取出して一杯つき第一に其子に與へた。子供はうま相に一杯のんだ。母親は感心したやうにその飲むのを見て「つめたくておいしいでせう」と言ふ。サイダーのツンとした氣の爲めに食慾を一時中止させたのであらうか、子供は満腹の體で平穩の態度である。之を見た母親は「これはいゝ澤山飲めなくて……」と言ふ間もあらばこそ「もう一杯」と再度の要求。「おや」とへんな表情をして再びコップにサイダーをつんでやつた母親は

「そんなにおいしいの」「と聞くと返事はせず、「チュー」

無言で又コップを母親の鼻先に突出す。さすがの母親もこんどは受付けず「又後で」

と言ひながら、コップとサイダーをお祖父さんのところへ自ら運び去つた。お祖父さんはコップに並々とついでうま相に飲む、之を見た母親は

「お祖父さん冷くておいしいつて、頬つべたをたゞいてゐらつしやる」

これでは禁止するのではなく、食欲増進満點の指導法である。

果然子供は母の誘惑にそのかされて、自ら祖父の座席へ出掛けコップを取りに行く。お祖父さんは今一杯と思つてゐるところ故、コップをすぐに渡さないで、イキナリお祖父さんの禿頭をたゞいた。

「おゝこれはしたり」

と驚いたお祖父さんはコップを孫に渡す。勝ち誇つた腕白は引返し又母親にせびつて一杯飲んだ。やがてのこと、腕白は

「シー——」

といふ、母親はあわて、便所へ連れて行くと、相にくふさがつてゐるので引きかへ

す。腕白はまた

「シー、シー、シー」

母親は大に困つた、然し子供は一向平氣である。サイダーのたゞりでもあらうが、何んとなく母親を困らせて悦ぶやうな風情も見える。米原につくと、母親の弟らしい男が辨當を四つ買求め一つを祖父に、一つを母親に一つを子供にやる、母親は

「この人なんかバナナやパンなど食べたからたくさんですの」

と辭したものの、腕白は一向平氣でその辨當を取り、忽ち封糸をとりムシヤ〜食へ出す。そして

「お辨當の方がいいや、サイダーからいによつてきらいだ」

といふ。さんざ飲んだことを忘れてゐる、これを聞いた叔父の人は

「そんなら恰度よい、こちらで貰う」

とコップを取ると未練のあつた腕白は叔父の頬を目掛けて

「バシヤン」

叔父は驚いてゴメンゴメンを連發する

「あゝ痛、亂暴な」

腕白は一向平氣で空とぼけてゐるので、叔父は

「亂暴したのは誰だ」

といふと、軽く

「ネヅミや」

と受けた具合などは實に狎れたものである。私は大に其の兒の態度に感心した。叔父は疊みかけて

「そのネヅミは何處にゐた」

「あつちへ行つたよ」

と天井を指さして空とぼけて答へる有様、實にようかうも仕込んだものである。この

五歳頃から表裏詐僞の觀念を斯くも徹底せしめたのは全く感服の至りである。

「キヤラメルお呉れ」

といふ。聲に應じて袋は母親に開かれて五つ許り腕白に渡される。序に母親も一つ口に頬張りながら

「かんちゃん何時もかうおとなしいと、度々東京へ連れて行きますよ」

と弟の方に向き乍ら立つた。この言葉で家庭の「かんちゃん」の平素の我儘が思ひやられる次第。

「この様な盲目の愛に捉はれた母親は兒の爲めに將來苦勞をするのが目に見えるやうである。母親は因果應報と諦めたとしても、我儘氣儘に育てられた兒が成年になつて、外圍のすべてから責められさいなまれて煩悶することを考へると、我子を毒する恐ろしい母と言はなければならぬ。近い處のみを見た愛と、遠い所を見た愛とは全然異つた道行と結果を來すのは當然である。この様な近視的愛情の爲めに一家に風波を

起こさせた例は私の知つて居るのみでも限りもなく多くある。角の生えて居ない恐ろしい鬼の母が、世の中に澤山に居るのは嘆かばしい次第ではあるまいか。

三 どう育てる？

□▲◎■先生おめでたう御座います、又相變りませず……

○おめでたう！

□大へん御無沙汰を致しました。毎月一遍は必ず伺ひたいと思ひ乍ら用事にかまけまして

▲先生とう／＼私も母親となりましたので、思の外用事が多く唯まご／＼ばかりいたして居りまして失禮いたしました。

◎先生私は夏にまけまして、それ以來……

◎御ぶさたは互ゆる御断りはやめて何かお互に爲めになるお話をしようぢやありませんか。

せんか。御ぶさたと言へば此頃私は学校の仕事が多く、そして又面白いので一生懸命にやりたい爲め凡て面會をお断りいたして引籠つて居ります、新年でなかつたら或はあなたがたも門前拂ひをうけたかも知れませんよ。

□おや／＼随分ですわね。こんな邊鄙な所へわざ／＼お訪ねした心をお汲み取りならないで……あんまりお情がなさすぎはしませんか。先生まあそれはそれとして今日は何か新しい私共の家庭の主婦としての心得になる問題をお出し下さいましな。

○□子さんは中々テキパキしてますね、これぢや妻君天下の評判も無理はありませんね。

□あらまア

▲先生かんじんのお話をお早く……

○ハハハ、口喧嘩なら龜の甲と年の功であなたがたに負けませんよ、……今日は子供をどう育てるかと言ふことを御互に考へませう。

□古くさい問題ですこと

○古くて新らしい問題はこの育て方です。新古にかゝはらず母としては最も大切な問題ゆゑ徹底的によく考へてみませう。□子さんはまだ御子様がないから當面の急務のやうに考へて居られないかも知れませんが、ぢきぶつかる問題です。

●先生はよく御存じですこと、□子さんは六月頃なのですつて

○そんならぢきぶつかるのぢやない、今ぶつかつてゐる問題です。古いなど、うつかりしてゐる問題ぢやありません、あなたはどうも浮調子でいけない。

□先生どうか御小言は御手やわらかに願ひます。學校にゐる時分あまり叱られたので今でも先生の前に出ると、學校時代の氣持がして恐ろしいのですから。

◎あなたには薬よ

□ようござんすよ、先生どうして今ぶつかつてる問題なので御坐いますか。

○儒教でいふ胎教と言ふのがそれです。子供の教育は母の胎内にある時から始まるの

です、それゆゑ子供がお腹の中に出来たら母親たる者は子供がお腹にゐる、自分の考は直に子供に移るといふ事と思つて、平素の考へや行を慎まなければなりません。

▲どんなに影響するので御座いませう。

○同じ腹の中にゐるもので血が通つてゐる故、母親の考はすぐに子供に影響するのは理の當然と思ひます。だから妊娠中何事か非常に驚くと子供が白痴になつたり、ころんで膝にあざをつくと、生れる子にもあざが出来てゐたなどの例が多くあります。

□まアこわい！

○それだから妊娠中に特に注意して目に汚れた色を見ず心に邪な考をおこさず、聖賢の教を聽いて日常の行動をつゝしむやうにと教へられて居ますが、之は實際さうあるべきことです。生れる子供の性質といふものは天の命令された所謂前世の約束ご

とのやうに思つて居ますが、両親の心掛如何によつて知らず／＼種々に教育されるのです。

□ なんだか恐ろしい気がします。

● ほんとですよ、□ 子さんなどもう今日から可愛い赤さんの爲めに、御自分の趣味など當然捨てなければなりませんよ。

□ でも可愛いかわ可愛くないかわ分らないぢやないの。

● 母様の心掛次第で可愛い子となり可愛くない子供となるのでせう。ね——先生

○ さうです、しかし可愛いと言ふことは一生を通じてでなければなりません、五つ六つ又は十二三歳まで可愛くて、それから後は悪らしくなり子とも思はない等と言ふやうになるのはいけません、その一生を通じて可愛い子とするには、それだけの又覺悟と努力とを要します。

□ 先生胎教の事は私に取つて緊急問題ですからも少し御話を願ひます。

○ 委しくお話をしたいのですが、これは次回の問題として別にお話しませう。唯あなたはお腹の子は生きて居て母の凡てが移ると考へて、特に生れるまでは氣をおつけなさい、妊娠中爲めになる講演は氣が進まなくともお出かけなさい。然し芝居のやうな娛樂的なものは絶対におやめなさい。

□ 生れてしまつたら、もういゝでせうか。

○ いえ／＼生れたら更に警戒しなければなりません。

□ おや／＼それぢや母親は子供の爲めに凡てを犠牲にするのですね。

○ 勿論です、母親としては身心の全部を子供の爲めに提供する覺悟が必要です。

□ 先生！ 女と言ふものは實際つまらないものですね、自分といふものを存在させることが出来ないで、一生子女や夫の爲めにコッコツ働くので御座いますね。

○ 勿論です。

□ 全く情ないのは女の身ですな、ほんとになぜ男に生れて來なかつたのでせう。

○そんなに簡単に考へるものではありません、一生子女の爲め夫の爲めに働く覺悟をきめることが、とりもなほさず自己の存在を認められることとなるのです。

□先生どうぞ少し委しくその點を伺はせて頂きたく御座います。

○女は他人の爲めに働くやうに見えますが、他人の爲めに働くは眞心から子供や夫の爲めに働きますと一家が治まります。一家が治まる位故主婦としていやな心配もなく子供も無事に成人し、其結果主婦としての存在の價値もあり、母としての權威も認められることとなり、自分は一家になくならぬ重要なものとなり、随つて自己といふものが認められることとなるのではありませんか。

●ほんとにさうで御座いますね。

○今の新しい考をもつてゐると自負してゐる女の方々はこの理由を知らないで、奥様になると直に自己を認めて貰はうと謀ります。恰度何の經歷功績もないに係らず、おれはえらいから尊敬せよと衆人に要求するやうなもので、其結果却つて自己

を侮辱されて煩悶することとなるのです。それ故自己を認められ生き甲斐ある生涯を送らうとするには、先づ夫の爲め子の爲めにあなた方自身を犠牲にする覺悟が必要です。

◎先生、そこで夫の爲めと子の爲めとの關係上私達はどうか心得たらよいでせうか。

○私は子の爲めと思つて自分を捨て、一生懸命にやつたらそれが又夫の爲めとなること、信じてゐます。夫に對して盡くす氣持が又子に對する道ともなりますが、あなた方に取つては子に對する道を十分に盡くすと考へた方が過失がないやうに思ひます。

●では、先生例へば夫の旅行中の日曜などに子供は何處かへ連れて行つて下さいと要求し、それが又正當な請求である場合に、妻として夫の留守中でもありかたなく訪問客の爲めに外出しない方がよいと思つても、子供を連れて出掛けた方がよいので御座いますか。

○私は子を思つてやれとは申しましたが、子に盲従せよとは言ひません。どんな場合でもものの輕重は考へなければいけません。夫が旅行中には妻が家に居るといふことは必要なことで、子供の外出と比較したら輕重は明かです。この場合「お父様が御旅行中だからうちに留守しませうね」と子供に言ひ聞かせるのが子供の爲めになることで、子供本位に考へれば、父の留守中子供が外出をせがんで母の務を怠らせるといふことは慎しむべきことです。子供本位といふ意味を誤らしめず、母親として最善を盡すといふことは形式に捉はれてはいけません。

○ほんとに形式に捉はれると此間の「恐ろしい母」といふやうな事となるので御座いますね。

○さうです。子供を育てる上に就てはよく精神までつき込んで考へなければなりません。

▲先生その精神までつき込んで考へるといふ段になると、私達はいつでも自分の修養の足りないことを口惜しく思ひますが、扱てどうしたらよいでせう。

○これはあなた方ばかりではありません。私も多數の御子様をあづかつて教育してゐる場合、一體自分達は教育者の資格があるか知らと心細く思ふことが度々あります。小學教育は完全だなど、言ふ方は只表面のこと丈を見てゐられるので、一度精神方面を考へたら今の小學教育は不完全だらけで……まあ學校教育の方はこゝで言はないこととしますが……

□どうか例をひいて精神教育を御説明下さいましな。

■先生、實際御話の通り精神まで突込みたいと思ひましても、種々の悪魔があつて突込む力を鈍らされるのが悲しう御座います。

○御察しします。姑舅、小姑など、色々ありますから中々容易ではありません。しかしそこです、凡てを犠牲にしてかゝるといふのは、並大抵な考では母の考は行はれませんから、子供の爲には母親はいつでも死ぬ程の堅い決心が必要です。

○……●子さんなどは御氣樂でいいでせうね。

(●)さんは、家庭教師として某氏の小田原別荘に七つになる某氏の子供と一所に居るのです。

●いえ、やはり邪魔があつていつも困つてゐるのよ。

○でも大層御主人から御信用があられるさうぢやありませんか。

●其點は誠に有難いのですが、元來御子様^なが御弱い性なので、色々御主人は御心配になるので私はどうか強^たくして上げたいと思つていろ／＼考へて、先生の成蹊主義を拜借して何事にも負けずに、こちらから進んで行くといふ主義を取りたいと思つてゐますが、邪魔があつて中々うまく行きませんのよ。

○先頃有益な話を聞きましてね、やはり●子さんに關係のある話なんですが……

●あら、

▲先生どうか。

○關西の某男爵家の家庭教師の話です。監督されてゐる其の男爵の御嬢様が或時風をひいて熱が三十八度となつたので、今まで健康の爲めに毎朝かゝさず行つて居た冷水摩擦を差控へたらと父男爵が家庭教師に言はれると、その教師の人は折角今迄やつて來たことであるし、風邪^{かぜ}と言つても大したこともないと思はれますから今迄通りなさる方がよいと思ふ、冷水摩擦は決して害はありませんと答へるので、男爵は醫者に相談し醫者の方から冷水摩擦を差控へる様にと言はせると、其教師は答へて言ふには、自分は大切な御嬢様の一切の教育を預りして居るのです、風邪のため冷水摩擦をやめると言ふことは、一寸見ると大したことはないやうですが、折角續けて來たものを左程害もないのに止めると言ふことは教育上考ふべき事と思ひます。私も聊か自信を持つて居りますから申上たのですが、若しなつて冷水摩擦をやめさせるも考へしたら、私の職を解いて頂きたいと申したとのことです。

●まあ、中々慥かりとした方で御座いますね。醫者に對してこれ程の事を言ふからに

は醫術に對しての心得や冷水摩擦に就ての深い信念がなければ言へないことで御座いますね。それから結局どうなりましたので御座いますか。

○たうとう父男爵が負けられたとの事です。そして一週間ばかりたつて風邪が全快してからその教師は男爵御夫婦に言うには、「私の強情に就てさぞ御恨みだつたこと、思ひますが、然しあの場合摩擦を止めた方が或は一二日早く御病氣が癒つたかも知れませんが、一二日晩くなつた所で連續實行して來た冷水摩擦をやめなかつた事と、摩擦は風邪には格別差支がないと言ふ信念とは、お嬢様の今後の氣の引き締め方に於てよい御經驗を與へたことと信じます」と言はれたさうです。

●ほんとに偉い方で御座いますこと。

○いやまだ〜お話があるですよ、又或時令嬢が小鳥を飼ひ度いと言はれたので、その教師はそれもよいことですが、小鳥は生きものですから餌をきつとおやりになりますかと言ふと、きつと忘れないでやるから是非飼つて見たいと請はれるので、カ

ナリヤとかを買つて與へたとの事です。或日一家團樂の夕食の時皆々將に箸を手にしようとする時、教師は令嬢に今夕の御食事はお控へなさいましと言はれたので、令嬢は小鳥に餌を與へなかつた事をハツと思ひ出し、急ぎ腰掛から離れて部屋へ行き、カナリヤに餌を與へ、食卓にもどり改めて箸を手にすると、教師はどうしても食事をなさつてはいけないと言ふので、男爵御夫婦も色々娘の過失を詫びられたとのことですが、教師は承知せず令嬢に夕食を攝らせなかつた。翌朝お嬢さんが小鳥に餌をやつてゐる傍にその教師が來て、「お嬢さん、小鳥でも動物である以上食事をしないわけには參りません、あなたは一回食事をなさらなかつたので、飢渴といふものはどんなものかおわかりになつたので御座いませう、今後は決して餌をやることを忘れてはなりませんよ」と訓戒されたとの事です。

▲ほんとにえらい方で御座いますね。

○ほんとにえらい方です。私もこの話を聞いてつくつゝ感心しました。家庭教師はか

うなければなりません。殊に上流社會にあつては色々な誘惑があつて子弟を毒するものがありますから、これ位の氣位のある自信のある家庭教師が必要と思ひます。しかし何の家の家庭教師も家庭教師も、骨のない追従の人か、超然主義の人ばかりで情なく思つて居たのですから、この話を聞いてほんとに驚きました。そして是非御目にかゝつて置きたいと思ひ、お名前を承りますと。

□先生どなたでしたの

○英國の婦人だつたのでした。英國人なら別に不思議はありません、日本の婦人ではこんな家庭教師は恐らく現今では、一人もないでせう、なんでもわざわざ令嬢の家庭教師として英國から呼びよせられたのださうです。

しかし皆さん、母親として子に對して常にこの英國婦人のやうに精神的に教育しなければなりません。之が眞の徹底的の愛です。前に私が寫生した恐ろしい母のやうな盲目の愛は子供を損ひやがて母親自身が損ふやうになります。冷淡に待遇する

外形は繼母根性にも似てゐてその内容は雲泥の差です。夕食を禁じた時その教師の眼にきつと涙が光つて居たでせう。そしてその一夜教師の胸は落ちつかかなかつたでせう。子を思ふ親の愛は時と場合により形を變へるのはあたりまへです。水は瀧ともなり流れともなり、鏡のやうに又點滴のやうに、又氷のやうに湯のやうになりますのは、皆その境遇と事情の如何によるのです。どんな場合でも同一歩調を取るやうなものは眞のものではありませんまい。親の子に對する嫉はどうかこのやうな風になりたいたいものです。皆さんこの話を長く記憶して下さい。

●有益なお話を承りましたして大層感じました。然しその教師の言ふ通りに従はれた男爵様御夫婦もお見上げ申すべき方と存じますが如何なもので御座いませう。

○さうです。然しその英國婦人は某侯爵が英國留學の時特に選抜して連れて來られたとのお話ですから、普通の家庭教師と違ひ、「ではお歸りなさい」といふことも出來にくい事情もあつたでせう。若し家庭教師が日本人であつてしかも其人の言ふ通り

に従はれたなら、それこそ其の男爵御夫婦は見上げた方と言つてよいと思ひます。

○實際私共は子供の教育に就いて眞面目に考へて下さる学校の先生の御詞をもつと深くかみしめる必要が御座いますね。

○よいところに御考へつきました。然し今の小學教師の方に果して尊重すべき價値があるかは問題です。なぜなれば前の英國婦人のやうに、醫師の言を拒むだけの衛生上の自信が今の小學教師にあるかといふことですが、かう言ふ事に就いて自分で熱があつても冷水摩擦を續行した幾多の經驗を持つて居なければなりません。又夕食を禁じたにしろ、自分が斷食の經驗がなければなりません。自分が冷水摩擦もせず斷食位出來ないくせに、若しかういふことを言つたらその結果はどうでせう。自分に自信と言ふものがなくて孝を説き忠を説き信を説いても徹底しないのは當然の結果と私は思ひます。母親も同じこと、自分は朝起をせずに子供に早く起きよと言つたり、自分で物品の整理を怠つて居乍ら子供のやりばなしを責めても到底

だめな話です。

○さう承ると私達も母親としての資格があるかどうかといふ問題にぶつかりますやうに存じます。かう考へますとほんとに先生心細くなりますが……

○實際心細いのがあたりまへで、大工や植木屋は知らぬこと、人間といふ品物を取扱つてゐる吾々は中々容易ならない立場にゐるのです、私は母親です私は教育者ですとすまして落付いてゐられる段ではありません。

○さう承りますと母親としての修養はどう致したらよろしう御座いませう。

○それは毎日の行事それ自身修養の因縁と思ふのがよろしいのです。日々の出来事から私共の心を研き上げる覺悟です、家をそつちのけにして趣味だの何んだのと言つて外出等は中々出來ません。

□あら先生いやですよ、私の方ばかり御覽になつて……でも先生外出しないと世間見づになつて子供の教育上物足りないことも御座いませう？

○世間見ずといふ點はむしろ今の新しい母親達に必要なとも思ひます。世間を見ると言ふことは大切ですが、悪いことを見るよりも見ない方がよいと思ひます。もしそれで不安心だつたら毎日の新聞の二三種も見たら澤山でせう。家庭の主婦が家に閉籠つてゐると言うことは、外見から言うと言情ないやうですが、閉籠つてゐるから家庭に力がこもるのです。母親一人が慥りとしてゐると子供が慥りしたものになり孫が慥りしたものになると言ふわけで、かう考へると、女一人の力と言うものは極めて偉大な結果となります。この意味から考へますと女子教育は現今一番その必要を叫ばなければならぬ問題と思ふ。母親がふい／＼外出ばかりしたら家庭に力が籠りやうがありますまい。これに就いてこの頃珍らしい話を聞きました。

○どうかお聞かせ下さい。

○日本橋にゐる株式仲買の方で常々勤儉貯蓄を鼓吹せられてゐる方の夫人は、まだ一度も三越に行かれたことが無いとのことと聞きました。□子さんなどは舊弊な人と

思はれるかも知れませんが、誰も彼も東京ばかりでなく地方の人までが三越を知らないのを恥とでも言つてゐる間に、日本橋に住まつてゐ乍ら一度も行かないといふのは奇跡のやうに私は思ひます。ひねくれてゐると思はれませうが、日増浮華奢侈に流れ行く今日、このやうなひねくれ者の爲めに着實勤儉な風が幾分でも保存されて行くといふことは面白い有り難いことで、私は我國風俗上これ等のひねくれ者は非常な重大な働をしてゐることゝ信じます。

○先生私も便利なもんですから時々三越や白木へ行きますが、子供を連れて行くのはわるいのでせうか。

○御子さんは連れて行かない方がよいと思ひます。あなたの御子さんに虚榮とか浪費の癖をつけたいと御考へなら連れていらつしやい。子供は感じのするどいものゆゑ、いろ／＼の美しいものを見るとつよく頭腦に印象しますから、子供のうちは君子危きに近よらず主義が一番よいと思ひます。その代り偉い人を訪問する時は子

供を連れて行き、眞面目なお話の會には子供に少しわかりにくくても連れて行つた方がよいのです。とも角あなた方は御子様就ては研究的に観察しなければいけません。芝居や其他の會への出席は世間を知ると言うよりは、世間から捉はれるやうな結果になり勝ちのものですから、まあ日々の行事について日々戦闘を續けて日々の事々の勝利者となるやう工夫しなければいけません。言ひ換へると心の使ひ方を上手にしなければいけません。

◎先生その心のつかひ方が中々六か敷いのです。

▲先生だん／＼分つてまゐりました。つまり子に對する教育を充分に致さうとする、母親自身の修養と言ふことが大切となり、母親の心の使ひ方といふことが問題となるので御座いますね。

○さうです、この心の持方の研究は日々出来るのですから、あなた方は「毎日心の持方」といふ學校にゐるわけなのです。學生は研究材料が多ければ多い程よろこぶ事

す。さうすると姑舅小姑等が居る方が研究の場合が多いから面白い研究が出来るわけ、ち子さんなどはこの内に育つて行くことが最も幸福なわけで、夫婦二人の□さんなどは一番お氣の毒な次第と言ふことが出来ます。

□▲◎●まア！

○その位の決心覺悟でなければ家庭博士の學位は得られません、この頃の女は夫婦二人ぎりの所を希つてゐますが、自分から家庭學の劣等生を望んでゐるやうなものです。

▲大さう御話を承つて勇氣がつけられたやうに存じます。一つその心意氣でやつてみませう。

○私は教育界に向つて其の意氣込でやつて行きますから、あなた方は家庭に向つて其の意氣込で是非願ひます。

四 子供の云ふまゝに

この頃子供の意志を尊重して子供の云ふ意見に両親が従ふといふ傾向が新智識の階級にだん／＼見えて來た。昔見たやうに親權を絶対に認めて高壓的に服従を強ひるのも考へものであるが、さうかと云つてこの頃のやうに子供の我意を通させるといふことは餘程考へもので、子供の爲めに却つて罪をつくることとなると思ふ。

例を擧げてみると、三越の食堂あたりで、さあ何を食べやうかなあと両親が一寸考へ、子供を振り向いて、おまへは何を食べるか等と聞いて居るのをよく見かける。何でもないことであるが大切なことである。子供に對してこのやうな場合考へさすといふよりも、両親の命ずるものに心から服従して批評的態度にならない様に仕込むことが親の情けである。

更にいふと明日どこへ遊びに行かうかなどといふ時、子供の意見を徴する父母があるこれもよくないと思ふ、両親が動物園とか博物館とかポルトレースとか三四の候補地を與へ、その中どれにしようか位はいいとしても、全然子供の意見によつて行動することはよくない。子供によると……所謂新しい家庭の子供によると、七つ八つで中々意見を持つてゐるのがある。意見を持つてゐるといふことは悪くはないやうであるが、頑として子供自身の意見を主張して両親の言ふことに従はないのがある。かゝる子供は教師の言ふことを批評的に考へて、自己の考を子供ながらまげまいとする。この氣分は所謂教育を受ける氣分ではない。小さな自分の考から時々教師の教育振りに就て批評的態度となつて、全然教師に委せるといふ氣分とはならない。教へ子としての態度として不十分である。然し今日の一般教育の上から考へると教へ子として最もよい態度を取らない方が悪い影響を受けないでよいかもしれないが、本校のやうな一つの主義を以て教育する所ではこのやうな生徒は誠に困るのである。

先頃受験生の中で、髪を長くのばしてゐた中學志願者がゐた。父親は子供の意志に

任せてゐたと言はれてあつたが、かういふ自由な両親の態度よりも、日本の普通の風俗から短く切らせてやる丈の干渉を加へた方が、子供に對して親のとるべき親切と思ふ。又子供がこの洋服がいとく、この着物が好きとか、食物でもこれがきらひとか好きとか言ふことを自由にさせて育てる人がある。これも自由に任せないで両親が世話をやき適當に指導すべきことと思ふ。昨年の中學の入学に子供が何となく氣が進まないといふから、折角御願して許されたものの強て行けとも言ひにくいからとて入学を取消された母親がゐられたが、今年もこのやうなことが小學一年にあつた。大切な學校選擇に頑是ない子供の考に任せる両親、子供の氣分に両親の力が何の効もないといふことは、誠に情ないことで、かういふ例を見ると、自分の子供等は何の取柄もないものの自分等両親の言ふことは絶対服従の態度を取り得ることを子供等の爲めに喜ばざるを得ない。又本校の生徒の大部分は學校の命令に就て服従する精神を養ひ來たことを喜ばないわけには行かない。

かう言つた所で自分は無理に服従を強ふるのではない。子供が自然と年をとり種々の場合を考へて、正しい自己の判断をつけ得る時代即ち中學の四五年頃までは、両親や教師の言ふことに全心を任せよと言ふのである。そして両親や師の親切周到な指導のもとに圓滿な發達を遂げ正當な判断が出來た場合、子供の意志を尊重すべきである。所謂新しい教育と信じて居る人々の考は、頑是ない志未熟なものを直ちに大人扱いにするものであつて、非常な不親切な態度と思ふ。苦學生が自分の境遇上から已むをえず自己本位の行動を取り、それが爲め一種の型にはまることは境遇上已むを得ないとしても、慈愛深き両親を持つてゐる兒童が、この様な外觀親切に見え實は不親切な取扱を受けるといふことは實に氣の毒の次第である。

教育上の自由主義は或場合には干渉主義でなければならぬ。つまり他力教育の時代には是非とも干渉主義を取らねばならぬ。これがとりもなほさず眞の自由主義である。

更に我日本帝國にあつては服従の精神は特に尊ぶべきことと思ふ。幼時より父母の命に従ふ孝道は我日本國民の大本である。この父母に服従する精神が即ち國君に對しての忠である。君の爲めには絶対服従の精神は今後日本臣民として愈々その必要を痛感する。然るにこの大切なる心得が、智識ある階級から破らるゝ事實を見る時其の家族のために悲むのみならず、國家將來の爲めに大に考へねばならぬ問題と思ふのである。

父母たるものは「子供の言ふまゝに」従ふことに就いて、慎重なる考慮をして戴きたい。

五 迷信打破について

昨年暮のことであつた。或る知人の宅を訪問すると、其家の年寄が丁度よい所に來て下された。實は若夫婦との間に意見の合はぬことがあるので、どちらが正しい

か、あなたに勝負を附けて貰いたいとのことである。何事であるかと尋ねると、ツイ先頃、家事展覽會が開かれて出品せられてあるものの中に、某女學校からの「迷信打破について」といふのがあつた。隠居と若夫婦との間に意見の合はぬのはこれで、隠居は昔からさう言つて來たことであるから信じなければならぬ。又事實さういふ事があるものだと主張し、若夫婦は、そんな事はあるものでないそれは迷信である、道理に合はぬことである。その女學校の意見に全然賛成であるといふのである。それで私にこの行司になつてどちらにか團扇をあげて呉れとの事である。

私はこれは面白いことだと思つた。私は答へて、どちらにも團扇をあげる事は出来ませぬ、どちらにも道理があるのだからと言つたのであつた。

家事展覽會に出てゐた「迷信打破」といふのは、昔から信じられて來た「十千十二支」とか「厄年」とか「方位」とか、さういふ所謂迷信と稱されてゐるものを擧げて之等を信ずるの妄を辨じ、是非さういつた弊習から一日も早く脱却しなければなら

ぬ、一度迷信に囚はれると酒精中毒にかゝつた様にそれから逃れることは中々出来ぬもの故用心をしなければならぬと言ふのである。

隠居は之には不服で、さやうに迷信だと言つて斥けたものではない、事實さういふ事があるもので昔から言ひならはして來た事には道理があるものだと言ふと、新しい頭の若夫婦は、それは古い頭の考ふることだといふ事で反對をする、收まりがつかぬのでこれに勝負をつけて呉れよとの事であつたが、私はそれには勝負をつけることは出来ない、どちらにも五分五分の道理があるのだと答へたのであつた。

私も以前には、かういふ事は全く迷信で、迷信は全然斥くべきものであると思つてゐたが、現在は以前程是等を下らないものに思はれなくなつた。是等の事は迷信だと言つて斥ける前に、もつと深く考へて見なければならぬ事がある、考ふる丈の價値があると思ふやうになつた。

一體私共は「自分」といふものが解つてゐる積りで居るが、實はさうではないので、

私共が意識することの出来る「自分」といふものは、自分共もの一部分に過ぎないのである。私共は「自分」の全部を知ることが出来ないのである。「自分」はどういふものであり、「自分」にはどんな力が備つて居るか、それを全く知る事は私には出来ないのである。私共の意識して居る「自分」は、眞の「自分」の表面に過ぎないのである。表だけを知つたのでは本當に「自分」を知つたのではなく、表裏の両面を知り盡さねば「自分」の全部を知つた事にはならない。ところが裏といふものは中々解るものでない故、私共が自分と思つてゐる以外に、私共の意識し得ない「自分」があるのである。自分の氣の附かない偉いところが自分にあるかも知れず、又氣の附かない厄介な事があるのかも知れない。己を知るといふ事は、意味のとりやうでは私共には出来ない事で、思ひもかけぬ自分とは思へないやうな意外なものが「自分」の中に存在して居るのかも分らない。

私共は室の壁を透して外へ出ることは出来ない。さういふ自在力はないと思つてゐる

る。けれども在るのかも知れない、あるふとした場合に、さういふ力が「自分」からあらはれて自分を驚かす事があるかも知れぬ。

それで「一度迷信に囚はれるともうそれから脱する事は出来ぬ故注意が肝要だ」と言つて居るが、「一度囚はれる」とでなく、大抵の人は既に囚はれて居るのであるまいか、迷信だと言つて斥けて居る若夫婦も、實は迷信に囚はれて居るのであるが、自らそれに氣附かないのであるではなからうか。表面の「自分」だけは囚はれてゐない積りでも、裏面の「自分」はもうちゃんと囚はれてゐる。表面では何とも思つてゐない積りでも、自分の氣附かない裏面では迷信といふものを矢張り氣にしてゐる。

干支とか、方位とか、或は怨霊とか、日取りの吉凶とか、厄とかいふやうな事がある。近頃はまた姓名判断といふやうな事も言はれて來た。かゝることが昔から國民の間に唱へられて來て居る以上は、日本人は誰も之を知つて居る。或は意識の上では信じて居ない積りでも、識域下では信じて居る。そんな事がと言つて表面では平氣でゐ

ても、自身の氣の附かない裏の方ではそれを氣にして居る。表面の「自分」は何の「そんな事が」と言つて其を斥けても、裏面の「自分」は「さうしては危ない〜」と言つて居る。

さうだとすると餘程考へなければならぬことで、例へば男の四十二歳は厄年だと言はれて居る。「そんな事が」と此歳に氣を附けないであると、識域下に隠れた自分は之を氣にしてゐるので、「氣にしてゐる」やうな事が必ず起つて來る。その氣にする心が之を引き起すのである。だからそれが他に弊害を伴はない限りは四十二は厄年だとして、健康其他に特別に注意をして行く事は、裏面の「自分」に忠實なわけで、従つて災厄を避ける事になる。勿論それかと言つて、是等のことに引つかゝつて、厄年だ厄年だと始終それを氣にかけてばかり居るといふ事はいけないけれど、深く考へもしないで、迷信だと言つて無下に輕蔑してしまふこともよくない事である。

私共には自分の知り得ない自己の領域を持つて居る、その知られざる自己の領域の

方が知られて居る自分よりも廣大なのである。だからもうこれでよいと油断をしてはならぬ。自分の屋敷だと思つて居る地面だけが自分の屋敷の全體ではない。自分の屋敷だと思つて居る所丈を掃除して、もうこれでよいと思つて居ると、大なる懈怠をして居ることになる。自分のものと思つて居るものだけを整理統率すればそれで事はすんだと思ふと大なる間違を來すことがある。

だから油断は出來ないもので、私共の責任はいつ全ふされたと言ふ時はないわけである。裏面の「自分」に従はないで、表面の自分だけで事をすまして居ると、往々何とはなしに不安を感じられる事がある。何故かは知らねど底深い不安が感じられる。これは有り難い事で、かゝる不安を感じられる時には、深く自分を省察して行かねばならぬ。

自分の見得る「自分」の範圍はきまつてゐる。自分の見得ない「自分」の領域は想像も出來ない廣大なものであるに相違ない。それを思ふと空恐ろしいやうでもあるが、又頼もしくも感じられる。裏に隠れた「自分」を自身で詳しく知ることが出來ないけれども、其れは感ずる事の出來る場合があるもので、理由は分らずに満足が感じられたり、又は不安が感じられたりするの、この知られざる領域から來るのだと思はれる。だから私共は深く省察しなければならぬ事があるので、世間に存在することに對して軽々しい解釋を下すことは出來ない。御隠居と若夫婦との意見の不一致に對して、どちらにも采配を擧げることの出來なかつたのは此の故で、老人は兎角迷信に引つかゝる傾向があるが、若い人は又軽々しく之を斥けて深い省察を缺くといふ傾向を有つて居る。譬へ「迷信」と言はれることでも、さういふことが世間に認められ、又私共の隠れた「自分」がそれを氣にしてゐる事の思はれる以上は、全然之を斥けるよりは慎重に考へて、寧ろそれを利用して足らぬがちの我心に鞭ち警戒を加へて行くといふ事にしたがよいと思ふのである。

六 國家の上より見たる母の位置

昔は母といふものは一家に關係してゐるばかりで、格別國家に關係はなかつた。則ち子を育て家事を取りまかなふといふのみで、國家の將來とは没交渉の姿であつた。然るに昨今の社會状態となつては母といふものが、國家の興廢に大關係を及ぼすやうになつた。母の力が一家から國家に及んで來た。母の資格が昇格して國家的となつたのである。

女子教育家の或者は女子の開放を叫んで、女子は家庭に閉居して居るばかりではない。母も内助の域のみに安んぜず進んで外助すべきである、と説いて居るが、これは眞に母たるべきものの位置に就ての理解に缺ける所があると思ふ。

内助といふことが中々容易ならぬ意義を有つて來たことを考へねばならぬ。社會状態が切迫して生活が困難になり教育が混亂して來た今日、内助といふことが昔と違つ

て非常に困難なことになつたのである。内助の域に安んぜず外助せよといふ人があつたら、その人は今日の社會状態に就て無理解と言はねばならぬ。

以前は教育といふものは學校で行ひ得た。家庭教育といふものは格別重要なものでなく、子女の教育を全部學校へ任しても格別の脱線もなく、どうにかかうにか子女は社會に出て働く根底を養ひ得たのである。然るに教育は形式に墮し、親切徹底を缺くやうになつた今日、更に社會の惡風潮は不健全な感化を強烈に與へ、無垢なる子弟を日に墮落せしめんと競ふやうになつた今日、家庭教育は俄然として重要なものとなつたのである。

既に今日の社會では、子弟が社會に出で、働さうる人格と才幹とを養ひ得とすれば、その子弟は家庭に憐りとした母、若しくは母に代るべき保護者があつた爲めである。教育の徹底といふ事は、學校教育だけでは到底得られなくなつてしまつたのである。

こゝに於て母は教育者の最も重要なものとなつたのである。所謂教育者は自分は教育者であると信じてゐても、眞の教育者として子女教育成功の鍵を持つてゐるものは、所謂教育者でなく家庭の母なのである。若しこの鍵を握る母がなかつた場合、子弟は教育を全うすることは出来ぬ。凡才は途中で倦み、俊才は途中で脱線してしまふのである。この眞に子女を憶ふ母があれば、俊才の子女は勿論凡才なものにあつても、各その教育の効果を収めて世に自立し得るのである。

かうなると母の役目といふものは中々容易ならぬものとなるのである。私共が世の爲めに働くと同時に、立派な種子を後に残すといふことが天分で定まつてゐる以上、自分達の子女を立派に教育しなければならぬ責務を持つてゐる。父はこの世の爲めに盡くすといふ方面を司り、母は子女の教育を司るとしたら母の仕事は中々容易ならぬ分量である。

唯母であればよいといふ昔の考から早く脱して、母は教育者でなければならぬ、愛すべき我子の教育者であるといふ確固たる自信の上に立たなければならぬ。

現今の社會は缺陷に充ちてゐる。之を改造するといふことは現代の人の務であるのは勿論である。しかし乍ら母として子女の教育の責任を感じる時、先づ目を付くべきは各人我家の子女の身上であらねばならぬ。脚下を照顧せずして夫の仕事を手傳ひ、更に社會運動に心身を使ふ事を見るたびに、私は決してそれ等の母に餘力ありと感服する氣持は起らず、それ等の子女の爲めに氣の毒の情に堪えないのである。

かくて私は又我國の改造といふ問題から考へても、既に「現今の國民」の開発善導には八分の望はない。又今日の「教育家」の改造にも五分の望しか有ち得ない。憂國の人士が全力を傾倒して國家將來の爲めに盡すべき方面は、將來の國民たるべき子女の眞の教育者たるべきこの母の改造であらねばならぬ。今日は教育者が教育の方法理論を論議してのみ居るべき時でない。そのやうな時代は既に過去となつたのである。今日は教育が學校の殿堂から歩み出して家庭に入り込み、母と教師と隔意なき提携に

依つて子女の教育は始めて徹底し得られること、信ずる。

母の位置は眞に重大なものとなつて來た。女子參政権といふやうな新しい權利を得んとする方面の外に、その同じ位置に於て母の責務といふものが以前と異つて重大なるものとなつて來たと言ふことを自覺しなければ新しい權利を得たとしても、社會の進運に關して格別の影響 與へるものでないと信ずるものである。

七 子供の氣分

私共はお互に以前は子供の境遇にあつたものですが、いつの間にやら子供の氣分を忘れて大人の氣分となつてしまひました。そして子供を持つやうになつてから、私は約十五六年の間に子供に對しての觀察にいろ／＼の階段を経て來たやうに思ひます。そして近頃のやうな社會状態になると、唯いろ／＼の見方が違ふなど、平氣で居られなくなり、兩親たるべきものは、家庭にあつてよく子供の氣分を研究して指導しな

ればならなくなりました。今教育といふことを理解してゐる家庭が子供に對しての指導方法に就て大略三つの種類に分ち得ると思ひます。

甲 親尊子卑

親子の關係は主従の如きものと定め、兩親の命令には絶對の權威があるものときめて居る、子供はどういふ風に考へてゐるか等とは考へず、兩親に對しては子は孝たるべきものと、孝行を強要する姿のもの、萬事は軍隊の命令のやうに子は親に従へばよしといふ風に考へて居るもの。

この指導者は老年の知識階級や、教育といふことに就いて理解のない階級に多く認められるもので、昨今その従順であると思つてゐる子女が、意外な反抗的態度や棄鉢的行動を實現するので、世間でも非常に驚いてゐるやうであります。この指導は極めて簡單明瞭安易でありますが、兩親が同情に富み且つ子女が従順であり、又環境が平和であればよいのですが、昨今のやうな刺激の強い社會状態となつては、非常な危険

が伴ふことを覺悟しなければなりません。

乙 親子同権

親子は同一體と観じて、子供を同等のものとして取扱ふ。即ち兩親の感じを本位として指導するもの。

例をあげて言ふと、日曜に劇場や活動寫眞に子供をつれて行つたり、湯から上つてすぐに着物を着けさせたり、子供が泣くとすぐに苦痛と即斷したり、大人の様子に座らして見たり、皆大人の氣持からの指導であります。それ故遊樂の好きな母親の子は遊樂に興味を持ち、健康な鍛鍊的の母の下には子供は元氣よく育てられ、身體の弱い母の下では柔弱に育てられる。この指導者は割合にひろく用ひられてゐるやうに思はれます。

丙 子供尊重

これは昨今知識階級の間殊に若い兩親の下に見える指導方法で、甲の主從的指導者の反動といふべきものと思ひます。大人たる兩親が種々社會的に捉へられて、眞實の生活から遠ざかつてゐるといふことを自覺すると共に、子供の天分の豊かなるを思ひ、其無垢な點を出来る丈け助長させてやりたいといふ親切心から、なるべく自由な境地に置かうとするのであります。

この考は決して悪い考ではない。然し二つの缺點があります。一つは社會といふものは現在種々の約束に縛らるべきもので、自由の畑を開拓しやうとすると反逆者となつて社會を呪ふやうな傾向となる故、その犠牲としての悶死をも兩親が覺悟しない以上、束縛の社會を束縛の社會と観て、そのうちから自由を見出すやうな指導者が必要で、小供のうちから自由を指導するよりもむしろ、命令とか約束とかは心から服従すべきものであるといふ甲のやうな氣持を或程度まで採用した方が、子供のためは幸と思ふのであります。今一つは自由の天地に逍遙させやうとする兩親なるものは、無垢の子供の指導者として果して適當の資格を備へてゐるかどうかといふことです。

そしてその結果、この子供尊重の指導者は、子供が我儘となり利己主義となり、其結果両親と離れがちで甲の指導者の失敗者とは結果に於て少しく色を異にしますが、両親の親切が仇となつて、親子の間が懸隔して親子共寂しい氣持に陥る點は同じやうに思ひます。

以上の三種類の指導者にいづれも缺點があり又いづれにも長所があります。それ故今後の子女指導者はこの三種類の長を採り短を捨てるやうにしなければなりません。それには先づ子供の自分といふものはどんなものか、といふことをよく知らなければなりません。尊重してもいけず輕蔑してもならず、同等に思つてもならず、或時は尊重し或時は無視し、或時は同等視するやうに、直接交渉者たる母親の缺點を眞似ず、他の長所を加へて完全な人物に仕込むやうに心掛けなければなりません。それで子供の氣分に就いて左に述べてゆきませう。

一 子供は未製品なること

両親たるべきものは子女の未製品であることを忘れてはなりません。両親や學校の教師によつて何年かの教育を受けて始めてものになるものであると言ふ事を考へなければなりません。子供本來の素質からこれは頼母敷いと思ふやうなことが發見されても、まだ鍛鍊をへて居ない未製品であるから決して悦んではなりません。勿論折角芽出したよい芽を摘み捨てるのはよくありませんが、その芽を既に立派な花か實かの様に誇大視してはなりません。と同時に悪い芽も時々出ます故、悪い芽が出たとて子供をせめ大げさに悲觀ばかりして居てもいけない。その悪い芽の出た原因を冷靜に考へて除くやうにしなければなりません。悪い芽は時とするとな無意識的行爲が原因して居る場合もあり、友達の感化によつて出る場合もあります。つまり子供は未製品であるとして考へて、子供の成功する迄の先きを見越し、せかず怠らずにジリ／＼時と場合とに適應した教育を加へなければなりません。

二 子供は大人以上に非常に鋭敏である

前記の甲のやうに子供は感じの鈍いものと断定して、子供だからと雲烟過眼視してゐるのは大に間違つてゐます。子供の感じは大人よりより以上強い烈しいものと思はなければなりません。客の前等でよく子供の棚おろしをなし、この子はどうも朝寢で困るとか、怒りぼくて困るとか言ふ親がありますが、この時子供は非常に耻かしく感ずるのであります。尤も子供は矢張り大人のやうに外觀を飾るもの故、平氣を装うて居ますが、心中では強烈な侮辱を感じるのであります。そしてかゝる親を恨む自分を起します。それ故子供の朝寢や怒り易いとか種々の悪傾向を匡正したいと思つたら、決して客の前で愚痴などをこぼしてはなりません。むしろ子供が次の部屋に居るのを知らぬ顔で両親が小さな聲で「あの子は早く起きると嬉しいがね」とか「怒らないようにしたいものだ」とか、夫婦だけで話をする、隣室の子供は耳をそばたて、非常に注意して聞き、忽ち早起きともなり怒り易い風を改めようと思つます。かう子供の感

情は非常に鋭敏で大人以上と思へば、両親は言行に於て注意を拂はざるを得なくなるでせう。

三 子供は持続性を持たぬ

子供の心は非常に鋭敏ではありますが、一時的で永續性がありません。この點を両親はよく呑み込んでゐなければなりません。大人と子供とはこの點が非常に違ひます。よく母親などが「この間もよく言ひ聞かせたぢやありませんか」と言ふのをよく聞きますが、子供に對しての教訓などは、一時限りで決して持続性を持つて居りません。それ故一度訓戒しても又忽ち犯すといふ事は多くの子供の通性と見て、こちらで厭きずに繰返し々々警戒せしめねばなりません。

四 子供を侮らず又買ひかぶらぬこと

「子供の癖に」と言ふやうな輕蔑は、子供に加へぬ方がよろしい。子供は習慣に捉はれてゐない故、大人よりよい考を持つ場合がある。學校の入學試問に「あなた

のお父様のお仕事は」と問ふたら、「醫者です」と答へたので「何の醫者か」と重ねて質問すると、「人間の醫者です」と子供が答へたので、その子供は先生を馬鹿にしたといふ風に考へられたが、この例など勿論先生に對しての侮辱ではない。當今は獸醫や家畜醫もあること故、内外科の前に人間の醫者であるよしを答へたので、この子供の頭腦は先生より遙に明快である。

これと似たことで私が出遇つたことですが、尋常一年になる子が歌を作つたと得意氣に持つて來ました。見ると、「もうさくらが　ちりはじめる　わたしはほんとに　いやになるかな」六六八七で和歌の形式をなしてゐない故。これは歌ではない、歌は五七五七七だ。おまへはそんなことはまだ知らないだらうと冷やかにあしらひました。が、よくよく考へて見ると、私の方が形式に捉はれてゐるので、これは立派な歌と言つてよいものである。子供の方が親よりも歌に對しての考が徹底してゐるのであつたのです。

この二例のやうに子供だからと決して悔るべきではありません、子供から大に學ぶべきものがある故、馬鹿にしてかゝらない様にしなければなりません。

しかし又ある場合には子供の人格を無視するやうな仕打も存外の効果を收め得るのであります。例へば先刻の朝寢の矯正であの方法もいゝのですが、又子供の人格を認めず朝食を與へずに置く。さうすると子供は一回で閉口して翌日は必ず早く起きます。この際唯「朝寢をすると御飯をあげませんよ」など、口許りのおどし文句ではだめです。母親の中にはこの口ばかりの威し文句で少しも實際に強味を見せない爲めに、子供から侮られきつてゐるものが可なり多くあります。それ故子供といふものは、伶俐で又馬鹿であると考へて適當な指導をしなければなりません。こゝが母親の研究心の必要な所以であります。

五 束縛を束縛とせぬやうに導くこと

私は子供に將來自由の生活を送らしめる爲めに、不自由の指導をしたいと考へてゐる

ます。世間の自由主義論者は子供を自由にせんとして却つて不自由な窮屈な生涯を送らしめてゐるやうに思はれます。

それ故私は子供に自由な生活を送らせたくない。この意味で贅澤な生活は教育上禁物です。さうかと言つて年中コセ／＼クヨ／＼した生活も送らせたくない、不自由の目に遇つて不自由と感じなく、狭まれた天地にゆるりとした自分を養はせたいと考へてゐます。例へば日曜日に外出して遊樂を外界より求めるよりは、一家の者打よつて庭の草取りをしたり、植木いぢりをしたり、平和な氣持で一日をのどかに暮すやうな行き方をしたいと思ひます。食膳にはむしろ粗菜をつけて空腹の境地からいしくそれを食べられるやう、衣服とか住居とかもなるべく簡單にして心を苦しめぬやう、禮式作法等は八釜しい窮屈なものにしないで、日常茶飯事のやうな氣分に指導したいと思ひます。

さうして子供が成人してからどんな困難にあつても、その窮屈な境地から平和の分を探し求めて、到る所青山を仰ぎ人生の劣敗者となることは免るゝことと信じます。私はこの意味で鍛鍊的教育を子供の爲めに親切な方法と信じてゐます。

○

終りに付け加へたいと思ふのは、私共が何か恐れるものがなければならぬと思ひます。道ならぬ行爲をした場合、神佛儒教でいふ天といふものに對して恐れるといふことは必要のことと思ひます。子供から青年になるまでは父母教師がこの天道に代つて恐ろしいものになり、道ならぬ事を慎ませ、青年時代壯年時代には社會の法律といふものが目を見張つて天道の代りに私共の心をひきしめ、更に中老の時代以後は種々の經驗から天道に就いて考へさせるやうになることが順序と思ひます。この意味で子供に對しては師や父母が、天にかはつて或場合恐ろしいものとならなければなりません。然し唯恐ろしく思はれたばかりでは困ります。懐しく思はれねばならぬ。母として言へば平常は懐しい母で若し道に違つたことをした場合、母は恐ろしいといふやう

でなければなりません。私はかういふ點から理想的母の資格は、懐しくして又恐ろし
し二つの力を兼備するものであると申し上げます。私は皆様がこの理想的母の資格を備
へらるゝやう研究を進められんことを切に祈るものであります。

八 夏の夜がたり

(客) 軍備縮少でのあまりの金を教育にも廻すといふことは誠に結構のことで御座い
ますね。

(主人) さうですね、けれどまだ――我國などは教育を學校教育と限り、其學校教育
の内でも、學科の教育と限つて居るので、子弟が時々脱線し父兄は唯驚いて居るこ
とが多い様です。

(客) けれど、この頃母親の教育に對する目醒め方は著しい様に思はれます。私共は
教育に就てはどうしても母親が目醒めなければならぬと、兼ての持論で御座います

が、昨今婦人雜誌で子女の教育に關する諸家の御意見が、一般婦人に歡迎される事
實から見て嬉しいことと思つて居ります。

(主) そんな傾向があるやうです。けれどやつぱり學科尊重で、子女を人間らしく仕
込まうなどと考へて居る婦人は何人ありませんか、婦人雜誌で子供を高等學校や大
學やに入れた母親の話等を読みますと、今日の婦人の教育に對する目醒めの程度の
心細さを感じて、せめてこれ等の人々には有害な試験制度も兎も角變態とは申せ、
目覺ます爲めには必要かしらとも考へます。

(客) ちと手さびしい御議論の様に承りますが、何か近頃御感じの事でも御有りから
なのですか。

(主) 私は婦人ばかりを責めるものではありません。全く教育といふと學校教育、學校
教育といふと學科教育ばかりを重んじて、世間一般文教當局者も結局教育と言ふも
のは、學科教育であると言ふ定義でやつて居られるのではないかと、常々心細く思

つて居ります。その結果、會社官廳組合などで、人物本位でなく學歷本位で其の中
でも、帝大出身者が一番便宜を得るといふので、猫も杓子も帝大帝大と目指し、學
資金が續かない者か又はよく／＼の頭の悪い者があきらめて他の方法を取るといふ
實際ではありませんか……勿論いつの世も例外といふものはありますが、前内閣の
高等教育機關の増設も此の誤つた思想からの産物と申してよいと思ひます。今十年
とたないうち屹度政府は困つて來ませう。……先達面白いことがありました。

(客) 承りませう。

(主) 私共の同窓會……帝大の出身者の會で、ある友人が何んと言つても吾々帝大出
身者は他校出身者と比べて品が違ふねといふではありませんか。

(客) なるほど。

(主) 私は其時申しました。そんなことは口に出して言ふものではない、帝大出身者
は品がよいと言ふのは善いものが集つたからよいので、何も帝大の教育の結果ぢや

ない、帝大からだつて有名な山田憲が出たぢやないかと申しました。するとあれば
實に残念だ。大學の面つらよごしだと、誰かと言ひました。

(客) 全くです。

(主) 世間もさう思つて山田憲が最高學府の帝大出身者であることを嘆き惜しまし
た。けれども私は決して残念とは思ひません。帝大出身者が今日他校出身者に比
し、最高の待遇を受けて居る爲めに、高等學校入學の激甚な競争を招來し、ひいて
は中學の入學試験の競争に關係を及ぼし、日本の教育上種々な弊害を來して居る場
合、帝大出身者の待遇を引下げ、其結果他の私立大學にも秀才を收容し得る氣運を
作り、私立専門學校以上の學校に於て更に緊張した教育を實施せしめる爲めには、
帝大の出身者の値打を下げた山田憲の出現は、教育の爲めに悦ぶべきこととさへ考
へたく思ひます。これと別な善い例で申したら眞鍋醫學士が實力本位でわざと博士
號を受けないことも、教育の爲めには忝い有り難い態度で、羽太氏が博士號を返納

することも結構な事です。

(客) 博士號はしかし大層都合のよい場合もありますのに、惜いことですね。

(主) それがいけないのです。その爲めに實力本位で押して行けなくなるのです。博士號ばかりではありません。帝大出身者であることが随分都合がよいのです。實力があつても帝大出身者でなければ、教授とか勅任とかにはなれません、帝大出身者なら實力が劣つて居てもなれるやうな、殆んど滑稽に近い例も多くあるのです。私なども帝大出身者で大層都合がよい目に遇つて居たこと、思ひますから、罪ほろぼしに實力本位の時代を一刻も早く招來する様骨折りたいと思ふので、こんな悪口めいたことを申したくなるのです。

(客) お話をもとに戻しまして、婦人の目醒めの慥かでないと言ふ最近の御感想を承りたく存じますが。

(主) さあ、實例を申して御話し致しませう。私の學校の父兄は他の學校の父兄より

も一般に餘程教育に熱心であります。

(客) 私もそれに就ては御同感であります。いつぞや小學校を參觀いたしました折、保證人會で母親の方々が熱心に子女の教育上について御打合せされて居た態度には敬服いたしました。

(主) それで、私共の學校の母親を今日の日本の目醒めた教育に熱心な母親と見るとおつしやるんですか。

(客) 私は左様見做して差支がなからうかと思ひます。

(主) 私はまだ、心細く思つて居る事があります。外ではありません、先程も申したやうに教育を學科と思つて居られるからです。

(客) さうでせうか、先日の保證人會母の會の時の御話ぶりでは、さうでもない様に思はれましたが。

(主) 私も始めの程は大層熱心な母親方を自分の生徒の母親として持つて居ることを

悦びました。けれどもだん／＼考へますと、やつぱり學科を尊重して教育といふものは、學科の教育だと考へて居られるではなからうかと此頃は考へられて、少しく失望の氣味なのです。

(客) 左様でせうか、何かその理由を證明する事實を御聞かせ下さいませんか。

(主) かしこまりました。小學の母親方が學科の外の大切な、性行上の事に就て、母の會の時に種々御相談があります。然しこれは御相談はあつても大切な事とは思つて居られない様です。その爲め、子供の大きな缺點、たとへば嘘をつくとか、他人のものを取るとか、隠れ買をするとか、さういふ様な芽ばえを認めた場合、親切にと思つて母親に御注意しますと、悦ばれると思ひの外宅ではそんな風は少しもありませんなどとすぐ辯護される態度を取られます。子供と言ふものの人格は完全に出来上つて居るものと考へられ、又家庭で完全に育て得ると確信されて居るかの様に思はれます。これが學科の算術とか國語がどうもよくないと言ふと、特別に課外に

御指導が願はれますまいかとか、家庭教師を依頼しませうかといふ心配仕方の眞剣な態度と、大層違つて居ります。

(客) なるほど。

(主) そしてまだあります。教室で學科の稽古を參觀されて居る母親に比べて、大切な遊び時間に子女の遊び方の如何を注意される母親の数が著しく少いのは眞實です。

(客) まだ御座いますか。

(主) 私の小學校では學科成績の點數の外に、その學科を修める態度に就て子供に知らせて居ります。之を努力點と申して努力の如何を知らせて居ります。私はこの努力點を大切に考へて居ります。努力點は學科點以上に重大に見る必要があると思ひて居ります。然るに父兄はこの努力點を輕視して、學科點にのみ心配して居られます。一體父兄が子供に就て心配する事は主として何でありませうか。

(客) さあ、身體の弱いこともその一つでせうか。

(主) さうです、子供の弱いことは親として心配なことです。それは健康の事は親の心配の大なるものでなければなりません。しかしこれは親である以上、皆相當に心配されて居ります。その外としたら

(客) ……一寸わかりかねますが

(主) それはぐれることです。ぐれると申してもいろ／＼ありますが、學校に行かずに遊んであるいたり、又はこの節の様に自殺をしたりする子供の親となつたら、まアどんなに心を痛めることとせう。

(客) 實際です、私共も若しも子供が自殺するやうなことがあつたら、どんな氣持だらうと、新聞でそんな事實を見るたびに、ぞつと身をつまされて考へます。

(主) しかし此頃のやうな世の中では對岸の火事と思つてはなりません。いつ自分等の子供の上にふりかゝつて來るか分りません。

(客) 恐ろしい事ですね。

(主) 恐ろしい事ですが、これも當然の成り行きでせう。

(客) 當然の成り行きとは……

(主) 社會の變化は子女の心に影響することの著しいのは當然なことで、其上學校教育の力が微弱となり、父母は唯學科の點數にのみ專念して居る以上、自殺といふやうな事は當然の結果と思ひます。或はそれ以上のことを惹き起すかも知れません。

(客) なる程。

(主) それ故自分の子女がそんな恐ろしい呪の惡魔に誘はれない様に希つたら、學科教育と言ふ頭腦を取去つて、人間を教育すると言ふ事に母親がならなければなりません。子供の母親が學科教育の弊から目覺めないなら、子女の自殺はだん／＼増加して行きませう。母親の學科教育尊重に就いて面白い事實がまだあります。

(客) 承らせて下さる。

(主) 私の小學校の母親は教育に熱心な婦人方ではありますが、それを失禮ながらまだ本當に熱心でない眞剣でない私が申します事實は、小學校の生徒がやがて成蹊中學や成蹊女學校に進んだ後、母親の參觀がバツタリ少くなり、殆んど無くなつてしまふことです。私は始終母親達に向つて、中學や女學校に進むと當人の心も動搖するし、先生の感化力も弱くなるし、見聞するものも複雑になり誘惑が多くなる故、小學時代よりも度々參觀して子女の學習態度を見るやうに勸誘して居りますが、今申上げたやうな實況です。

(客) なるほど。

(主) これからいよいよ大事な時になつて、子女の觀察をやめる點から考へて、私はどうしても母親は教育に眞剣であると思はれぬと思ひます。

(客) なぜでせうか。

(主) 外でもありません、學科教育が教育であると誤解して居る母親は、參觀と言へ

ば學科の參觀と思つて學習態度の觀察の大切なことを知らない母親は、中學や女學校の授業は聞いて居ても面白くないので、ついつい學校から遠ざかるやうになるのです。かくして子女の脱線が中等學校から生ずるのは當然のことと思ひます。

(客) いかにも。

(主) 全くです、佛作つて眼入れずと言ふやうに、いくら小學校時代に熱心に子女の教育に骨折つて見たところで、誘惑の多い中學女學校時代に放任して置いては、子女がどんなになるか知れたものでありません。そして母親の中には小學時代は私が氣を付けましたが、もう中學になりましたから教育は主人にゆづりましたと言はれるのを聞いたことがあります、これで眞剣な態度と言はれませうか、子女の教育は母親が死ぬまで全責任を帯びるといふ態度が今日の改造された社會の母親の態度と私は考へます。

(客) 中女學校の參觀に就て母親の注意を承らせて下さい。

(主) 私は學科に就いて出来なくともぐれたり死ぬやうな心配はありません故、學科の不出來はむしろ心配しないでもよいと思ひますが、日常の態度、人格養成に就て母親はもつともつと眞剣な態度を以て子女を観察誘導して行かなければなりません故、參觀する場合は種々の學科に對する子女の學習態度を細かに観るべきだと思ひます。さうしてその態度が相當眞剣であつたら、成績はよくなくても満足してよいと思ひますが、若し學習態度が不眞面であつたら、擔任の教師と相談の上匡正するやうにしなければなりません、この學習態度は技能に關する習字や圖畫や、裁縫や、又思考の方で國語數學理科等一通り參觀して、各學科に於ける子女の學習態度を観察し、更に休憩時間や作業時間の態度をも見て置かなければなりません。母親の中には子供が參觀をきらふためにしないと言はれる方がありますが、子供が好まぬから實行せぬと言ふ方針でしたら、教育の結果はどんなになるか心細いわけです。教育に對して一般母親がまだく眞剣でないと先程申しましたのは、かういふ事實が

あるからです。戸締のない家には泥棒がはいります、御用心のことです。

母親の爲めに(終)

受けた恩寵を身の誇りと語る折はあつても、先師遺徳の宣揚に力足りないことを耻づる時、遺稿の湮滅を患へてその整理に没頭し、誰に頼まれたといふでもなく、楽しんで努めてゐられる澁谷氏を敬せずにはゐられない。已に歌集「権の一本」の輯は公にせられ、昨今は「先生の年譜」作成にお忙しさうである。その間に集めたといふて見せて下さつたこの一卷を拜見し、年を隔てゝも拜讀すれば、思ひ更なる中村先生の忠言の眞實なるに感じ、現在愛兒を成蹊學園に托してゐられる母上方にも熟讀をすゝめたく、その印刷弘布をおすゝめしたわけで、只管澁谷氏の多大の勞に感謝の敬意をさゝげたい。

昭和九年十月三日法母庵にて

奥田 正 造 謹 誌

昭和九年十月廿五日印刷
昭和九年十月廿八日發行

編輯兼
發行者 東京市豊島區雑司ヶ谷町五ノ七〇七番地
澁 谷 光 長
印刷者 東京市小石川區大塚窪町三番地
三 澤 朝 一

賞費取扱

東京市小石川區大塚窪町三番地
光 成 館 書 店

振替東京二九八〇八番
電話大塚六四五五番

終

